

綿帽子をつけた琥珀色の種子も心が和らぎます！！

'13年11月5日(火)～'14年1月5日(日)
相模川湘南地域協議会 記録:中門吉松

2011年は僅かに315株だった開花が3年目の今年は3367株と10倍に増えた。河原の堆積土砂を除去して整備して頂けた結果、シナダレスズメガヤなどの雑草に覆われた河川敷から玉石河原を取り戻せつつある。まだまだ道半ばであるが保全・再生への夢が膨らむ。



11月8日



11月30日

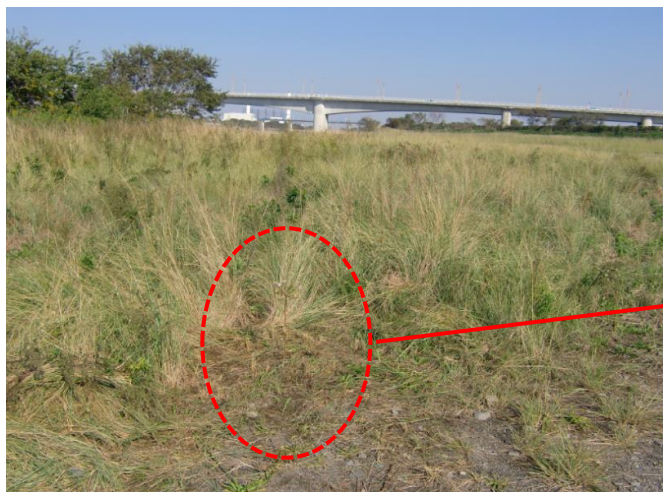


11月30日

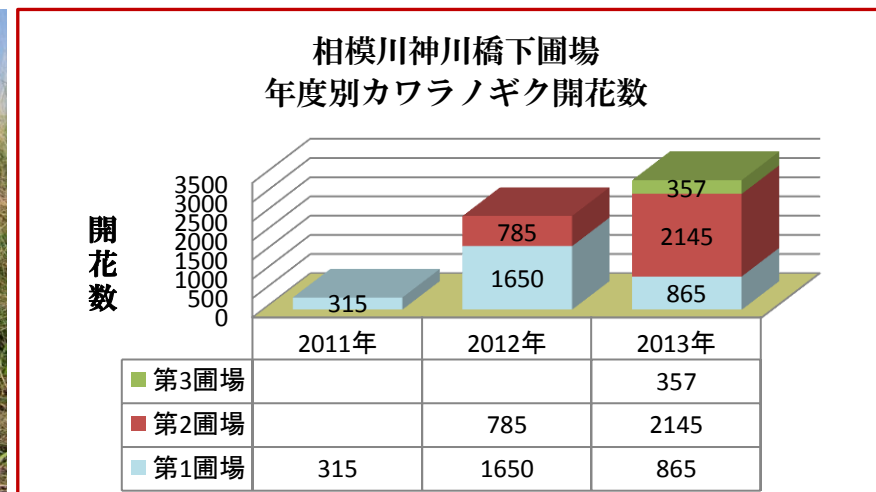
10/5開花したカワラノギクは10月下旬に満開を迎え、約2週間満開状態が続いた。

11月下旬になると圃場は一面が琥珀色に染まり、ところどころに遅咲きの花が見える。

第1圃場では相次ぐ増水の影響により、大量の土砂が堆積して多種の雑草に侵食され始める。



圃場から100m程離れ、シナダレスズメガヤが群生した中に一本の”カワラノギク”が花をつけていた。風散布、付着散布のいずれかは不明だが”奇跡的の一本”に見え感動した。



神川橋下河原で保全・再生中のカワラノギクについて、圃場毎の開花推移をみると、1年目でもかなりの開花数がみられる。

定例(第3日曜日/月)のシナダレスズメガヤ除去に合わせて圃場内の雑草抜き取りも実施

毎回、秦野から菅沼さんが参加され、圃場の手入れ・雑草抜き取り作業を黙々とされる姿に頭が下がります。12月下旬にはロゼットが霜枯れします。



圃場内に侵入した”シナダレスズメガヤ”を優先して抜き取りするが、他の雑草も増えてきた。



ロゼットは霜の影響で萎れて葉枯れした状態で先端に僅かの緑を残して越冬する。



圃場の少し下流では寒川町が仕掛けた捕獲用の檻に特定外来生物の”アライグマ”が入っていた。

2014年1月5日(日)相模川中流域の愛川町六倉圃場でカワラノギクの採種作業

【参加者】さがみ地域協議会 7名 相模川湘南地域協議会 4名(幼児含む)



六倉圃場のカワラノギクは背丈が1mを越えたものが大半で多くの種子をつけている。・・・カワラノギクの種子を付着させながら2時間程採種した。